



第 97 回 全国図書館大会 2011/多摩大会 開かれる！

(主催：日本図書館協会)

広げよう、図書館のある暮らし 一つなげよう知の拠点

続けよう Help-Toshokan—

今図書館大会は、市民の図書館をどう暮らしの中に広げていくかといったテーマを掲げ、東日本大震災における図書館被災状況からどう復興していくかといった大きな問題を抱えての開催となった。初めてこの大会に参加し、第 18 分科会の実行委員として関わった者として、簡単な報告をしたい。(増山)

●10/13 (木) 13:00～16:30 開会式・全体会

調布市グリーンホールは、600 名余の参加者で埋まり壇上には、文部科学大臣代理局長、長尾国立国会図書館長、調布市長らの来賓と共に東京都町村立図書館長会代表、文科省社会教育課長が着席、来賓の挨拶から厳かな開会式が始まった。調布市長の長い挨拶の中で、明治 39 年より始まったこの大会に驚きと共に敬意を表され、心に傷を負った子どもたちにとって書物の大切さを話されたのが印象に残った。

基調報告に立った日本図書館協会理事長塩見氏からは、議論を深める素材にして欲しいとして東日本大震災・大きな被害をもたらした台風にふれられ、多摩で開かれる意図についての話があった。

図書館及び図書館人の被災について、陸前高田市では図書館職員全員が、南三陸町では館長が亡くなるなど、多くの職員の死亡や行方不明者が出たこと、また施設・資料の損壊流失等こうした事態に対して速やかな支援をしたいとして、募金活動、被災地情報の収集、避難している人のための情報の閲覧等様々な図書館機能復興支援活動の取り組みをしている活動を紹介された。

本の持つ力、図書館の持つ力を再認識して、図

書館らしい支援一人間の尊厳が危機にさらされる生活が強いられたとき安心して生きるための確かな情報の収集、がなさらなければならないとして、分科会でも図書館協力連携の復旧・復興から再生・創造、危機に強い図書館づくりについて、生活基盤損壊の中で問われる図書館機能について議論して欲しいと提言された。

市民の図書館を生み出した土壌である多摩の地で初めて市民主体の分科会が開かれること、市民の図書館として継承していくものとして第 18 分科会が紹介され、今年度、まだ 500 万人の未設置(自分の住む町に図書館がない)があるとはいえ、図書館設置率は 74.4%(市区 98.6%、町 53.6%)で昨年度より 0.3 ポイントの増加があったとして市民の図書館について話された。

その他、公立図書館指定管理者導入状況(2010 年度までに導入 134 団体、岐阜県・名古屋市・草津市の導入計画取りやめ)、電子書籍元年としてのデジタル情報環境、技術の活用について駆け足で説明されたが、時間の関係で出された資料の半分にとどまったのは残念であった。

〈アンケートから〉・塩見先生の報告をもう少し詳しく最後まで聞きたかった／「基調」報告 30 分では短い。重要な問題もあるので、せめて 1 時間はとってほしい。

被災地の取り組みから学ぶとして、岩手県立図書館、宮城県図書館、福島県立図書館、気仙沼市教育委員会からの報告の後、パネルディスカッションが行われた。各地の被害状況とその対応、支援の取り組みや現在の状況など、被災地からの生々しい報告は、目を覆うような状況の中にあっても必死で復興に取り組む人たちの姿が浮かび上がってきた。4人の報告から共通して語られたのは、被災者にとってコミュニティとしての町の図書館の存在がいかに重要であるかということ。これからはコミュニティに結び付いた図書館施策が大事であると強く感じた。

「震災でしばらく休館後に開館した時、「図書館はいいね。心が安らぐんだよね」という町の人たちの多くの声を聞いてコミュニティの拠点としての図書館を感じた」というパネラーの報告は、津波で被災した福島の新地図書館を8月に訪れた際のひとこま一視聴覚の一室を仮図書館としてオープンし、段ボール箱に本を並べて貸出してしており、そこで親子連れや

老若男女が箱を覗き込んで本を選んでいたが、その町の人たちの穏やかな顔一を私に思い起こさせた。

＜アンケートから＞

- ・被災地の実態が分かり、改めて大変な被害であったことを実感できた。復興までには、まだまだ時間がかかるだろうが、日本全体で支えていきたいものだ。
- ・被災地の生の声を聞いて大変良かった。
- ・日本図書館協会が被災された図書館の復興・支援に力を注いでいる実態を改めて知ることが出来た。JLA 会員として誇りに思うとともに理事の皆さま方はじめ関係する皆様の尽力に頭が下がる。自分は金銭的支援しか今のところしていないが、今後、長期的に何が出来るか、何をすべきか考え実践していきたい。
- ・震災による図書館被害については、ほとんど具体的に知ることがなかったので大変ショックを受けた。情報を風化させず、守り、また発信していく場所としての図書館の機能についても考えさせられた。
- ・被災された図書館の被災の状況、その後の取り組み、課題について、詳細なご発表があり、いつあるかわからない災害への対応について考えさせられた。

●10/14(金) 分科会

＜多摩地域4市9会場に於いて行われた分科会＞

1 市民の図書館、2 図書館評価、3 電子書籍と図書館、4 短大・高専図書館、5 学校図書館、6 専門図書館、7 図書館学教育、8 図書館職員の雇用問題、9 図書館の自由、10 図書館利用教育、11 資料保存、12 障害者サービス、13 児童・青少年サービス、14 多文化サービス、15 健康情報、16 認定司書、17 ICTと図書館、18 下記報告

第18分科会「住民自治と図書館」

図書館を支える市民の力

— 図書館協議会・友の会・市民運動 —

多摩市 永山公民館 ホール (約120名参加)

ここでは、町田の図書館活動をすすめる会が中心となって運営した(総合司会:山口、記録:玉目、撮影記録:手嶋、接待:守谷、他当日スタッフ5名)第18分科会の概要をご報告する。

『市民の図書館』発刊から40年を経過し、改めて「市民の図書館とは？」が問い直されている現在、「市民の図書館」の実践舞台として図書館行政の頑張りや日本の図書館界をリードしていく一方、町田のように市民運動を背景に発展してきた歴史を持つ多摩地域において、97回目にして初めてという市民主体の分科会が開かれ、多摩市公民館ホールは大半が市民参加者で埋まった。

図書館界に様々な問題が浮上する中、図書館をサポートする市民の力について議論を深めたいということから、テーマは、住民の声を効率よく図書館運営に反映させるには公的制度としての図書館協議会を正常に機能させ活性化させることが重要であること、そのバックには住民運動や自発的なボランティア活動、また全国規模での市民運動が不可欠であるとして設定し、地域での活動に実践できる分科会を目指して開かれた。

● 基調講演 「図書館を支える市民の力

—参加と協働による図書館づくり— (90分)

講師: 中川幾郎氏 (帝塚山大学大学院法政策研究科教授)

豊中市図書館協議会委員長でもある氏は、自治体文化施設の重要拠点として、町の総合計画の中核に図書館を据えることの重要性を広く人権とコミュニティ再生の視点から捉えて話された。①より豊かに

自己表現をしていく権利、②外部世界と関わって交流していく権利、③学習しより豊かに変えていく権利、の3つの規定を紹介し、人は文化的な生活に参加する権利があるとして、国際人権規約について説明。表現の自由、外部から情報をもらい評価を受けるコミュニケーションを保障、その評価で自分を修正し(学習する) 落差を埋める、これらは、人間として成長するために必要なことで、図書館は、正にこの3つの権利を実現していく施設であるとし、すべて含めて自治体がやるべきことである、と。

町の総合計画の中での自治体の個性が出てくる図書館とは。参画と協働の地域図書館づくりは、要求型ではなく地域コミュニティと手をつなぎ、誰のために・何のために・どのように政策すべきか、公益性の実現に向けて考えねばならない。

公益性とは、全ての人の経済的利益のパブリックと、弱者・マイナーな少数派に対するパブリックすべての人に公正平等、を峻別することが大事で、それにより、大衆迎合主義(中・長期的視点に立った社会開発投資の視点や社会的弱者といわれる人々の立場を無視)、に転落することから免れることが出来る。また、今あるハードをいかに使い直すか、人的資源を作り直しハードからソフトではなくヒューマンからハードに、の論理を分かり易く説明された。

参画なき協働は安上がり行政となることを指摘され、これから市民活動の意識の持ち方についても多くの示唆を語られ、この分科会ならではの密度の濃い話を終始ユーモアたっぷりに聞かせて下さった。

この後、3つの現場からの報告(各30分)があった。

①「多摩地域における図書館協議会」

報告者: 松尾昇治氏 (実践女子短期大学教授)

図書館協議会は、自治体の条例によって置くことが出来る(図書館法第14条)と定められているが、任意規定のため、2006年度の調査によると公立図書館における協議会の設置率は約70%。多摩地域には30市町村全てに公立図書館があり、その内の5市町村に協議会が設置されていないが、設置率は83%(類似したものを含め)と高い。協議会の役割、委員構成、任期、会議ルール等、協議会の姿や、氏自ら町田、小金井の協議会委員としての立場から、多摩

地域の図書館協議会の姿等分かり易くパワーポイントで説明・報告された。

②「静岡図書館友の会」がめざすもの

～協議会・図書館を支えるために～

報告者: 草谷桂子氏 (静岡図書館友の会)

指定管理者制度導入問題がおきてから6年間、協議会の傍聴を欠かさず続け、長年精力的にサポートした結果、指定管理導入を退けた、静岡図書館友の会の活動を報告された。

協議会委員や職員が変わる中で、図書館応援隊の市民は、その前身である「静岡市の図書館をよくする会」より変わらず経過も現状も把握しているギャラリイとして、新しい委員や職員が確実にバトンを受け取り、方向を迷わず走ってもらえるよう見守り応援し、情報発信と資料提供を怠ることなく続けられたという。相手が動きやすいように、相手の立場を尊重して良い結果を生むようにうまく運んでいく・・・、熱い情熱をもって深く静かに話された。何処にそのようなパワーが潜んでおられるのかと思う、優しい人柄がにじみ出た報告であった。

③「図書館友の会全国連絡会」の活動について

報告者: 福富洋一郎 (図書館友の会全国連絡会)

結成から7年間で65団体・73個人会員を擁し、メーリングリストを使っての情報交換や交流でいち早く地域の情報をキャッチ、互いに手をつなぎ個では不可能な大きな問題に全国組織として運動を展開、政治を担う議員たちへの要請行動や要望書を提出するなど各地の図書館市民運動を支え連携する活動を、会場を楽しい笑いの渦に巻き込ませながら報告。特筆すべきは、(資料として配布)を2009年の総会決議で出した市民による「私たちの図書館宣言」であろう。

現場からの報告の後、中川先生に大いに援けられながらフロアとの意見交流を行った。市民がいかに自分たちの町の図書館を愛し発展を願っているかが質問や意見の中から色濃く窺えた。協働での図書館づくりの可能性が見出された分科会であったと思う。

●フロアーとの意見交流 (記録:玉目)

司会を増山が務め、助言者として中川幾郎氏、報告者の3名に質問に答える形でご登壇願ひ、意見交流が行われた。まず、報告者の3人から発表の補足とその関連コメントがあった。

松尾: 図書館法の改正による図書館協議会委員の選出がゆるやかな基準になることについて補足。

中川: 図書館法の改正は、地方自治の分権化の一環で、地方分権は市民が政策とか事業現場の基準づくりとかいったシステム作りに一層関わっていかないと自治体がダメになっていく。図書館協議会は市民の代弁者の位置づけである。外部評価をする組織として、参画協働の基本原則である当事者参画および納税者も入りバランスをとる。

草谷: 31年間活動をしてきて、運動が活発になった時は、必ず冒険があった。それぞれの役割を果たしていくことで、市民と図書館と図書館協議会とマスコミが大まかな信頼関係でつながれた。おかしいと思う時には声をあげるそういう気持ちが私の中にはある。図書館職員は市民を信頼して欲しい。市民は怖いものではありません。

福富: 図書館友の会連絡会のキャッチフレーズ[手をつなぎ、図書館支える図友連]を紹介、一人ひとりが手をつなぎ大きな力となることは重要(絵本『スイミー』のように)。図書館職員を支えたい。

<会場からの発言>

K(仙台市): 1962年に図書館が出来た時から協議会があり、当初は図書館を前に進めるための力になっていた。今は、指定管理者の問題に対する扱いで危惧している。非常に壁が厚いので悩んでいる。

松尾: 委託化の問題が出たとき図書館の進むべき道を市民と共に議論しようと協議会主催で開催した小金井市での図書館フォーラムを紹介。

中川: 協議会の傍聴と会議録の公開請求をするべき。また、委員への働きかけも大事。声をあげる。紙にして出す、それを絶えずやる。

G(登別市): 図書館協議会委員として、議事録の作成を働きかけ、協議の内容を会報で知らせている。

U(岩国市): 数年前に市民会議条例というのが出来、図書館協議会は廃止になってしまった。復活させたいと思っているが、そうした事例があれば知りたい。



中川: 岩国の条例?は市民会議の役割、権能を持っているのか。行政の説明はどうなっているのか。その間の経緯は確認できているのか。

U: 必置義務のあるものは残っている。内容は公開されていないので状況が分からない。

中川: 市民会議というのは総合的な政策を審議する機関では? 何処に行けば図書館に関する市民の質問にしっかり応えてくれ、説明してくれるのか、教えてくれるまでしつこく答えを求めること。

K(所沢市): 3月に図書館の指定管理者制度が議会で可決され、来年4月から実施になる。その後、図書館の長期計画を作るという請願を市議会に出した。議会は全員一致で採択した。これからも大変。

中川: 情報公開制度は、参画協働の制度で、市民からの意見をいただければいただくほど中身が変わっていくのがパブリックコメントである。指定管理者制度は、専門職の配置が無ければその施設が無意味になってしまうような図書館とか博物館とかのインステテュー(研究所とか教育機関)施設には、馴染まない。

S(小平市): 市民と協働する図書館を前提として、一職員としての心構えについてアドバイスを。

松尾: 図書館員の専門性プラス地域を知ること。市民サービスに徹すること。

T(町田市): 多摩市の図書館協議会の委員を引き受けたら、途端に廃止になるというので、反対し協議会は残ることになった。分科会のテーマ、住民自治について町田の図書館市民運動の浪江虔氏の功績を少しお伝えしたい。氏は1962年に地域文庫作り運動を提案し、自ら設立した南多摩農村図書館と町田市立図書館の児童書を団体に貸出をし、読書の普及を図り、また1963年に「中小都市における公共図書館の運営」いわゆる中小レポートが出版された時には、「満腔の賛意と若干の批判」という論考を図書館雑誌に寄せている。また、町田の図書館協議会設置運動も氏の尽力によるものである。「市民の図書館」40年といわれるが、町田の図書館の発展の歴史は

市民の力に依るところが大きい。

司会:住民と市民の違いについて、浪江さんは、住民はただ住んでいるだけの人、市民は自分の意見を発信して町を良くしようとする人だと話されていた。中川先生も論考をお持ちだとか？

中川:住民と市民の違いは浪江さんの言われたとおり。ハンナ・アーレントの言説、納税・貢献・行動の出来る人が市民である。

草谷:私たち市民は、図書館の応援団で、職員の応援団でもある。いかに市民が図書館のことを大好きで応援しているか、「図書館っていいね」の中よりご紹介したい。(文章を朗読)。

福富:図友連は、図書館の理想を追いかける面と危機に対処する面で手をつなぎやっていきたい。

松尾:協議会の任務は館長の諮問に答える、意見を述べる、だけでなく活性化のために行動する。

中川:東日本大震災で、図書館は壊れ、本も流されたけれど、本を読み、伝えるという技術は残っている。これからの市民と行政は相互乗り入れである。

司会:助言者の中川先生には、報告や質問の随所で貴重な発言をいただき、心から感謝！参加者のみなさんが地元に戻られて今日得られた情報・学びを活かしていただけたらと思う。ご協力ありがとうございました。

＜アンケートから＞

- ・図書館職員として市民と対話していこうという勇気もらった
- ・初めての市民の分科会、市民に役立ち利用してもらうのが図書館。本当に意義のある分科会でした。
- ・中川先生のお話は図書館だけにとどまらず、社会教育や行政といった視点から協働について語られており、視野が広がりました。住民の方たちの図書館に対する思いが感じられた分科会でした。

第14期図書館協議会第2回定例会報告 9月27日(火)

館長報告／市議会定例会にて一般質問で公明党のあさみ議員から、子どもの読書活動の推進について質問があった／決算委員会にて、定年退職した人への図書館利用サービスについて、木曾山崎図書館の改善点についてなどいくつかの質問があった／教育委員会で、第二次子ども読書活動推進計画の2010年度の取り組み、図書予約冊数上限の変更などについて報告をした。予約冊数変更については、予約取置本のスペースがパンクしかかっているためかねてより懸案事項となっており、こうした措置となった。代わりにインターネットからの貸出延長が可能となり、また市民センターなど予約資料受け渡し場所が3ヵ所増え、予想以上の利用となっていることもあわせて報告された。

協議事項／図書館評価の進め方を検討し、4つのグループに分けて11月の協議会までにそれぞれのグループ内で評価とコメントを検討し、協議会にて全体で話し合うスケジュールが確認された。グループのメンバーとリーダーを決め、メールでグループのスケジュール調整を行うことにした。(水越)

第27回町田市立図書館団体登録利用者懇談会 開かれる／11/10(木)14:00～16:00

尾留川館長、河合氏(司会)、各館から8名程出席 <さるびあ図書館2階読書室>

参加団体:親子であそぼうジャンケンポン、紙芝居サークルふわふわ座、NPO 法人まちだ語り手の会、町田図書館活動をすすめる会、かえで文庫、ツクイ サンシャイン西館、町田第二小学校、ゆりかご、点訳奉仕団、藤の台子ども文庫、町田ブックワークの会、柿の木文庫、南中 風の会、ブックカフェイン、音訳グループ、おひさま文庫、うさぎの会、町田第二中学校、小山保育園、まちだ史考会、地方史研究会、など

館長より、鶴川駅前図書館が来年9月か10月にオープンすること、工事中に井戸が2つも出てきて工事に変更が生じたこと、新設忠生図書館の蔵書が10万冊の予定であること。南町田の利用が高くパンク状態であること、などの挨拶があった後、参加団体の自己紹介、温かい緑茶のサービスで小休憩をして、懇談に入った。

・中集会室が狭いのでホール使用を余儀なくされているが照明が暗くて字が読めない・・・中集会室は、鶴川図書館の準備室として半分使用しているため、時期がくれば解消する／・図書館のコピー用紙は写真の場合きれいにでない・・・紙は市役所全体での購入で、再生紙の白は薬品のため環境の点で使わない／・紙芝居についての意見として、町田市の民話の紙芝居があるといい・紙芝居が少ない・1タイトル2つあると使い易い／・本の配達ボランティア募集の紙を見たが・・・一人暮らしの人などを対象に配達するボランティア登録を条件付きで募集している／・漫画の予約は？・・・複本用意する予算はないし、本のシリーズを順に館に回すこともシステム上困難。予約は対応しかねる。

(丸岡)

秋の古民家に語りの声が響きました！

—お話し会の実施報告—

町田市教育委員会生涯学習部 文化財担当課長 神田 貴史

町田市教育委員会では、11/3(祝)・12(土)に記念行事を開催しました。そのアトラクションとして、民話の語りを「まちだ語り手の会」の皆様にお越し、実施いたしました。その模様を紹介させていただきます。

★11月3日(祝) 自由民権資料館開館25周年記念「資料館まつり」

当館は町田を代表する民権家の一人である村野常右衛門が若手育成のため建てた文武道場「凌霜館」の跡地に開館し、今年で25年を迎えました。この日は開館以来最高の332人の方々にお越しいただき、大いに盛り上がりました。企画のひとつとして実施したお話し会。演目は「小野神社の力石」等地域の民話をはじめ、日本や韓国の昔話等を語られました。延べ58人が参加し、楽しいひと時を過ごしました。特に小学生の参加が多く郷土歴史資料館において意義のあるイベントになりました。



★11月12日(土) 旧永井家住宅再公開記念セレモニー

薬師池公園内にある国指定重要文化財「旧永井家住宅」の1年をかけた改修工事が完了し、11月1日(火)から公開を再開しました。茅葺屋根も葺き替え、室内には照明を設置し見学しやすくなりました。

1年ぶりの公開再開を記念して、「町田の民話」の語りの他、玉川大学芸術学部の学生さん達による太鼓の演技を行いました。当日は晴天に恵まれ延べ266人の参加があり大盛況でした。古民家独特の雰囲気の中で「薬師池の大蛇」など町田の民話11話が語られましたが、ひと言ひと言が住宅内に厳かに響きました。1回目は49名、2回目は64名が参加し立ち見ができる程の盛況振りでした。語り手の皆さんも「雰囲気のある場所で語り良かった」とのコメント。国の重要文化財としては都内最古の古民家での語り、参加された皆様にとっても大変貴重な経験ができたことと思います。

★文化財の利活用にむけて

町田市教育委員会は2009年2月に「町田市教育プラン」を策定しました。このプランは今後10年を見据えて、教育施策をどのようにすすめていくかをまとめたものです。教育プランは、教育施策の全体計画である「基本プラン」と、今後の教育施策の方向を示した重点計画である「重点プラン」の2つで構成されています。この「重点プラン」のうちの重点施策に「文化財活用の促進を図る」が掲げられました。文化財については、これまで修理等の維持保全が優先される傾向にあり、市民への活用、還元が不十分でした。貴重な文化財を将来にわたって保存するとともに、市民が文化財に触れ、また価値を実感することで郷土に親しみ誇りを持てるようにすることを目的として事業を展開していきます。今後も多くの皆様に気軽に楽しんでいただき、且つ文化財に慣れ親んでもらえるような企画を実施していきたいと思っております。

★PRです。今回行事を開催した施設を紹介します。是非おでかけください。

【自由民権資料館】 野津田町 897 TEL042-734-4508 開館9時～16時30分。月曜休館。入館無料。

自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集、保管、閲覧、また常設展示「武相の民権／町田の民権」のほか年2回の企画展開催などを行っています。自由民権を冠する資料館は全国で3館しかなく、日本の自由民権研究の情報センターとしての役割を担っています。当館で日本の「自由民権運動」のルーツを探ってください。

【旧永井家住宅】 野津田町 3270 薬師池公園内。公園開園時間6時～18時。入館無料。

江戸時代中期に建築されたもので都内では最古といわれる農家住宅です。小野路町に存在した農家を昭和50年3月に現在の薬師池公園に移築し、昭和53年に国の重要文化財に指定されました。茅葺き屋根の仕様は寄棟造です。薬師池公園は来月から紅葉も始まります。皆様のご来園をお待ちしています。

図書館を巡る (愛知・三重)

石井 一郎

去る8月4日、名古屋でのレファレンス探検隊へ参加した折、名古屋周辺の図書館を巡ってきた。

まず、地下鉄栄駅下車3分のところにある「愛知芸術文化センター」(美術館、芸術劇場、文化情報センターの3つの機能のある複合施設)1階の「アートライブラリー」に行った。スペースはあまり広くなく、町田の堺図書館くらいである。そこには、演劇・音楽・美術・楽譜の書架と雑誌コーナーとCDの書架とオーディオコーナーがあった。特集コーナーでは、美術館で行っていた棟方志功展の関連書籍を展示していた。アートライブラリーの落ち着いた雰囲気のある図書館だった。利用者も少なく10名位で、セーラー服を着て楽器を持った高校生も数名いた。歌舞伎の本を何冊か立ち読みし、合唱曲などのCDを探してみた。私の好きな多田武彦作曲の「男声合唱組曲雨」を見つけ思わず手に取ったが、学生時代歌った古い版でなく、新しい版の全6曲であった(※古い版と新しい版では1曲違う)。ちなみに合唱組曲「雨」の6曲目は町田出身の八木重吉の詩である。

翌日、桑名市と岡崎市の図書館を見学した。

桑名市立中央図書館はPFI方式(プライベート・ファインンス・イニシアチブ=公共施設の整備と公共サービスの提供を民間資本に任せる方式)によって2004年に建てられ運営は図書館流通センターと桑名市が共同であたっている。図書館は、桑名駅から徒歩6分ほどの複合施設の3階と4階にあり、3階から入ると、左手にカウンター、右手にはチラシなどが置いてある。そこには、郷土に関するものとして「桑名藩士」「上げ馬神事」「石取祭」、Lib-naviとして「図書館を使って“まち”を知る!」「図書館でニュース・記事を調べる」などパスファインダー(A4用紙を縦方向に二つ折りしたもの)がいくつかあった。

書架の方へ目を移すとコルクボードに特集展示に関する案内が何枚か貼られていた。そこから壁沿いに行くと新着図書コーナーがあり、特集コーナーに続いていく。特集として、「涼しくなるもの」「はやぶさ(小惑星探査機:長島ふれあい学習館でイベント

中)」「石取祭(8月5日~7日開催)」「図書館ボランティア団体(声の奉仕)」「調べ学習コンクール入賞作品のコピー(図書館の学校主催のコンクール)」が展示されていた。3階には一般書架と児童コーナーがあり、4階には、左手に郷土資料とレファレンス資料があった。右手の郷土資料室には鍵が掛かっていたので職員の方に声をかけ開けてもらう。郷土資料と3人の個人文庫の資料が書架とダンボール箱に置かれていて、個人文庫の本は藩校の授業に使われた和本(一部伊勢湾台風で濡れて補修されていた)や明治時代の本や児童図書であった。一日いても飽きないくらい本好きにはたまらない空間。室内には筆記用具のみの入室になる。

目玉コーナーの桑名市映像アーカイブスでは桑名市を紹介したNHKニュースの映像をブースで見ることができる。朝日新聞で紹介されていた屋外にある読書テラスだが、屋根や庇がなく、私が行ったときは利用されていなかった。

名鉄で岡崎公園前駅から徒歩10分ほどの岡崎市図書館交流プラザ内にある岡崎市立中央図書館に行くと、1階はレファレンスライブラリーとなっており、専門書・参考図書・地域資料の書架が並んでいる。書架の脇には検索機があり、OPACを使える。インターネット席や持込パソコン利用席もある。2階には、ポピュラーライブラリーとしてテーマ別の一般図書(趣味や小説など)やティーンズコーナー・視聴覚コーナーや新聞雑誌コーナーがあり、私が行ったときは、広島の福山市と提携40周年を記念して福山コーナーの展示がされていた。福山市観光案内や福山市がロケ地になった映画「少女たちの羅針盤」のパンフレットやチラシなどが置かれていた。ポピュラーライブラリーをいったん出た先に子ども図書室がある。子ども図書室の書架は低いので室内が見渡せる。空間が広く気持ちがいい図書館だった。

今回、3館を駆け足で見学した。もう少し、事前の準備ができたならよかったと反省している。桑名と岡崎両市とも小中学生の調べ学習コンクールを実施しているところだったので、比較などもできればよかったと思っている。来年以降見学に行く際は、ポイントを絞っていきたい。(会員)



ひろば

例会報告 10/19(水)18:00-20:00
会報休刊

出席者：石井、伊藤、久保、玉目、手嶋、尾留川、増山、丸岡、桃沢、山根、山本

【近況から】

・今月の会報は、休刊。次号で、全国図書館大会の特集を組みたい。

・図書館大会を終えて(大要は、1p～)／課題を洗い出して、市民としてどのような図書館を望むのか？／まち全体の中での図書館の大切さが分かった／指定管理者制度、実際は経済問題。図書館が考えることではない。財の分配をどうするかが問題なのだから。図書館は本来コミュニティ施設であり、市民に還元されるべきもの。

・第26回のづた丘の上秋まつり(11/3)について／野津田雑木林の会主催・・・セルビアの試合と重なっているので周辺の渋滞や駐車場の混雑など心配。

・図書館大会18分科会参加の慶応大(図書館情報学)の学生さんより「すすめる会」の活動についてインタビュー依頼あり。調査、論文にまとめたとのこと。

・成瀬センター建て替え情報(2013年工事スタート、2015年完成予定)／かえで文庫・・・10/18に、今年度初めての建替え検討委員会が開かれた。同時に公募メンバーで構成された((26名が3グループにわけて要望などを聞く)ワークショップも始まり、かえで関係の者も5名加わっている。ここでの会議で検討し、煮詰めていく形をとる → 11/10(木)第2回検討委員会が開かれ、具体的に建物の構造や動線、室割などを検討した。かえで文庫として一部屋確保したい旨、ワークショップのメンバーからも声を上げている。本が読める空間の確保はもちろん、地域のひとつの居場所として重要。かえで文庫がどういう活動をしているかについてしっかり話をしていかなければならない。／地域の施設の中に核となる存在として図書館があるのが望ましい。本の受け渡しの図書館機能として南町田と忠生の次に成瀬という考えもあるが、スペースが確保できるかどうか。文庫と本のあるコーナーとは別物。

【図書館関係】

・協議会で図書館評価をしているが、委員の人はもっと周りの市民の声を聞いて評価に盛り込んでもらいたい。

・図書館評価の児童サービスについても、根本的なところを見直さないと、改革できないのでは？／町田の児童サービスはこうですという確たるものがない／お話

2011年度 第9回 文学館(主催)で楽しむ
おとなのためのおはなし会
12月22日(木)10:30～11:30
町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算 53回)

- *町田ゆかりの作家「神戸照子」 増田佳恵
 - *「こびとのおくりもの」(グリム) 丸岡和代
 - *「五枚のお札」(日本の民話) 櫻井宏子
 - *「クリスマスローズの伝説」(ラーゲループ作) 西村敦子
- 直接会場へどうぞ! 無料 保育有
(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

会にしても各館で統一が取れていない。ボランティアに関しても、団体を優遇している館や熱心な職員がいる館、職員の異動でまた違ったものになるなど、いろいろ格差が出ている／児童担当の職員との話し合いを持ちたい。

・中央館の役割とは？ 市立図書館の中核として各館をサポートする役目があるのでは？ イベント案内にしても町田市立図書館全体が分かるものにすべきだ。地域館を利用している市民の中には中央館を利用している人も多くいるのだから。

・11/1(火)14:00～図書館子どもまつり(仮称)会議開催(→16 登録団体が参加。今後、市民と協働で行えるよう図書館ボランティア連絡会の組織が必要である旨の意見あり。そのことについては次回にということで、とりあえず、3月29日(木)～4月1日(日)子どもフェスタをやることに決定／ホールを使っのイベントを考えている団体は、次回調整をとる。

・12/1(木)図書館嘱託労・定期大会開催。すすめる会にも招待状が届く。

・11月例会時に、第18分科会での中川幾郎氏の講演ビデオをみて、再度学習することに。

お知らせ

・12/3(土)10:00～12:00 町田市男女平等推進センター講演会「東日本から学ぶ 被災者支援と災害対策のありかた～女性や多様な立場の人々の参画を～」
講師：竹信三恵子氏(和光大学教授・東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表・元朝日新聞編集委員兼論説委員)
／町田市民フォーラム3Fホール／要申込：042-724-5656

あとがき 政府支持率とやらが出てくると、無性に腹が立つ。無作為に調査をしたというが、質問に応えた人間は、自分が出す答えに責任を持っているのだろうか？ そうでないとすると、何の意味もないどころか、考えを持たない人間まで引きずり込む。図書館協議会委員として送り込まれる人が、図書館のことを何も分からず、重要な問題を討議するのと似通っている？ 協議会委員は、非常勤特別職の公務員だそうだが、この身分の位置づけもどこかしっくりこない。委員をサポートするのは市民なのである。(M*)